



梅花新聞【香里】
第39号

題字 管長 福山諦法 禪師
 発行者 釜田 隆文
 発行人 曹洞宗宗務庁
 企画編集 伝道部詠道課

お誓い

- ・私達は梅花流詠讚歌を通して、正しい信仰に生きます。
- ・私達は梅花流詠讚歌を通して、仲よい生活をいたします。
- ・私達は梅花流詠讚歌を通して、明るい世の中をつくります。

明けましておめでとうございます。

年が改まりますと、水の音も空の青さも万物が新鮮に感じられます。高祖さまは、峰の色谷の響きもみなながら、我が釈迦牟尼の声と姿と、と詠じておられます。全ての事象は真理を説いて止むことはありません。同じく梅樹の開花落葉も真如の相といえるでしょう。

香里に集う皆さんは梅花流詠讚歌を通して、正しい信仰に生きます、仲良き生活をします、明るい世の中をつくります、とお誓いをしている訳です。姿勢を正し作法に則り詠唱をしている事でしょう。これは清らかな身心を養う修行に他なりません。師範詠範の指導のもとに、梅花流の詠道にご精進されますことを願い言葉と致します。

平成二十八年度

梅花流全国奉詠大会



(平成二十八年五月十八日・十九日 富山市総合体育館)

五月十八日(水)・十九日(木)

の両日、平成二十八年度梅花流全国奉詠大会が富山市総合体育館で開催されました。

二日間で約八〇〇〇人の参加者を集め、本年四月に発生した熊本地震をはじめ、近年相次ぐ自然災害の被災物故者を追悼する法要も営まれました。

入場・オープニング

定刻となり、大梵鐘が鳴り響く中、大会の幕が開きました。

横井真之伝道部長が声高らかに開会を宣言し、続いて地元富山県内在住の幼稚園児による献灯献花が行われました。

第一部 開会式・法要

開会式に移り、会場内の全員で「三宝御和讃」をお唱えする中、大会総裁・曹洞宗管長福山諦法禪師が入堂され、記念法要が執り行われました。今大会では引き続き

「自然災害並びに熊本地震被災物故者追悼法要」が行われました。

その後、会場の参加者との相見の拝が行われ、「高祖道元禪師も好まれた梅の花は、仏道に咲いた美しい花なのであります。私たちもこの花のように凛とした生き方をしましょう。移り変わる世の中で、一日一日を大切にしなければなりません」とのご垂示がありました。

第二部 式典

大会長の釜田隆文宗務総長が式辞を述べ、続いて開催地である富山県宗務所の伍香修道宗務所長が歓迎の意を述べられました。

最後に、挙唱司と会場の参加者全員により「お誓い」が唱和されました。挙唱司は、一日目が富山県長興寺梅花講の松倉喜好さん、牧野美香子さん、貞昌寺梅花講の松里律子さん、二日目が報恩寺梅花講の野崎美智子さん、龍光寺梅





花講の佐伯ハナ子さん、佐伯照代
子さんが務められました。

第三部 登壇奉詠

今回は希望者全員での登壇奉詠
となりました。

多い組で四〇〇名を越える登壇
となりましたが、一糸乱れぬお作
法で、厳かに奉詠が行われました。
また、奉詠の間には各宗務所か
らの個性あふれる暖かな応援メッ
セージがスクリーンに映し出され
ました。

お昼の休憩では、金子清学総務
部長の呼びかけにより曹洞宗義援
金の勧募が行われ、続いて富山市
市長の森雅志さまより参加者に対
し歓迎のご挨拶がありました。

第四部 清興

今回の清興は、富山県を代表す
る伝統芸能である「越中八尾おわ
ら節」が披露されました。

僧侶により灯されたろうそくが
並ぶステージ上に踊り手たちが現
れ、哀愁漂う演奏と艶やかな舞で
観客を魅了しました。

第五部 閉会式

閉会式にあたり、詠讚師による



「坐禅御詠歌（浄心）」の独詠のな
か、参加者一同椅子坐禅を行いま
した。続いて副大会長の横井伝道
部長より本大会に参加いただいた
講員の皆さまと関係者への御礼の
ご挨拶があり、あわせて次回の開
催地が発表されました。

最後は恒例となった参加者全員
による「まごころに生きる」の大
合唱でした。今回は特別に講員の
皆さんによるコーラス隊が編成さ
れ、舞台上で合唱をリードして
フィナーレに花を添えました。

次回は梅花流創立六十五周年を
迎えます。梅花流の原点である大
本山永平寺で日頃の詠道の成果を
披露していただけることでしょう。



「永平寺での お唱え」

東京都観音庵
正伝師範
笹川亮宣



梅の枝を持たれた熊沢禅師さま。手前には若き日の宮崎禅師さまのお姿が



梅花流は今年創立六十五周年を迎えます。五月に記念大会が開催されますが、五十年前に同じく大本山永平寺を会場に梅花流創立十五周年記念奉讃大会が開催されたことはご存知でしょうか。当時の様子を梅花流正伝師範の笹川亮宣先生に伺いました。



当時の梅花流の様子を教えてくださいませんか？



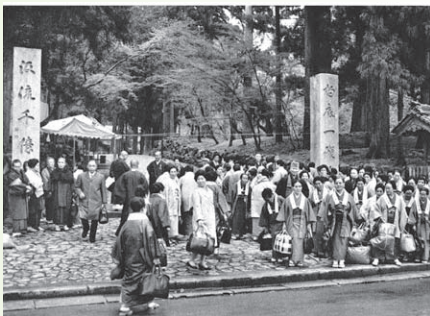
ばいかくん

師範、詠範、一般講員さん、本当に真剣に梅花にとりくまれた時代です。今のようになくさんの曲があつたわけではないですが、夢中でした。戦後の辛苦をかかえ、梅花の世界に取りつかれたようにおもいます。

此の頃は、師範も少なく曲を覚えるのに必死で、みなさん夢中でお稽古した時代です。時には、昼、夜問わず「今、稽古しているのですがこのところがわからないので、教えて下さい」と、電話がかかり、受話器越しにお唱えしてご指導することもありました。

永平寺での大会はどのような様子でしたか？
永平寺の法堂が人、人、人、ではみ出るほどでした。あまりにも大勢でびっくりしました。

二日間にあたる大会でしたから、朝課のときも座る場所のないほどいっぱいの人で、こんなに梅花が伸びたのかと驚きました。私は大会の度に詠讚師を命じられました。管長さま、禅師さまをはじめ大勢の前で大変



大勢の方が永平寺に集まりました。

緊張いたしました。一生懸命つとめさせていただき、ありがたかったです。

強烈な印象として今でもはつきり残っていますのは永平寺貫首熊沢禅師さまが、お山いっぱい聖号が響きわたる中、小ぶりの梅の枝を胸に携えて入堂されてこられたお姿です。みなさん禅師さまのお姿を一目でも、と感激のご様子でした。



来年は福井県・大本山永平寺にて六十五周年大会が開催されます。梅花流に励む皆さんにメッセージを！

私も元気であれば永平寺まで飛んでいきたいです。詠讚歌の言葉は、仏さまのおしえです。みんなお寺に集まって、人数の大小にかかわらず、なかよく和やかに仏さまの教えに親しんでいくようお努めください。心穏やかな素晴らしい世界で、平和な生活ができるでしょう。

私は九十二歳になりますが、若い時に覚えた曲は年をとっても自然に出てきます。

一生懸命お稽古した時のこと、楽しかったこと、全国大会に行ったときのことなどいろいろ思い出したりしていると、楽しいひと時です。

仏命を頂いている間、力の限りお唱えしていきたいと思えます。みなさんも頑張りましょう。



お唱えをされる笹川先生(右)



ばいかくんニユース

両大本山での檀信徒講習会、

国内外の梅花ニユースをご紹介します。

【大本山永平寺】

(平成二十八年十一月一日〜二日)

深山幽谷の凜とした空気の中、総勢五十三名の受講者の方々が講習に励まれました。

今回は特別に、山門にて『溪声』・法堂にて『紫雲(高祖)』をお唱えするという貴重な経験が得られました。

◀法堂にて『紫雲』を献詠。



▲法堂にて厳かに開講式が行われました。

◀山門にて、仏殿・法堂を仰ぎ『溪声』をお唱えしました。



【大本山總持寺】

(平成二十八年 十一月二十八日〜二十九日)

総勢八十七名の受講者の方々が集まり、熱心に講習に励まれました。和やかな雰囲気の中お唱えを学び、最後の時間には大祖堂にて『紫雲(太祖)』を献詠しました。

◀穏やかな雰囲気での講習



▲朝課(朝のお勤め)にてご焼香させていただきました。

◀大祖堂にて『紫雲』を献詠。



【奈良東大寺で奉詠大会開催】

十一月十日に奈良市の華厳宗東大寺大仏殿内にて兵庫東大寺事務所主催平成二十八年年度梅花流地方奉詠大会が開催されました。

五百名を超える講習員さんが参加され、前日まで小雨交じりだった天気も当日は晴れ間が出るくらいになり、梅花流を大仏様が迎え入れてくださったようでした。

東大寺の入り口である南大門から中門、大仏殿内までは聖号(釈迦牟尼仏)から「廬舎那仏」に変更をお唱えしながら歩き、大仏様(廬舎那仏)がお座りになられている高さ二五メートルの須弥壇に参加者全員が登壇し『紫雲』『高嶺』を献詠しました。大仏様の間近でお唱えされた講習員さんの中にはお唱えしながら歓喜の涙を浮かべている方、声を震わせている方などがみられ、皆さん練習した梅

【ポルト・アレグレの梅花流についてーブラジルからのお便りー】

サン・パウロ市の佛心寺で禅の修行を始めたころ、禅に音楽スタイルがあることを知り驚きました！西洋で読んだ本にはこのことについて記載されておらず、私には新しい発見でした。

実際に梅花流のグループが法要でお唱えしているのを拝見して、幸せな気分になり、ベストを尽くしてこの音楽をブラジルに持って行きたいと思えました。

それからポルト・アレグレに移り、サンガ「慈水」(Jissui)で梅花流の勉強会を始めました。月に一回、参加者三名、法員一名でのスタートでした。所作の練習も必要であるため、メンバーの一人が建築材店で見付けた道具で代用しました。

メンバーたちは、梅花流が音楽として、また禅の修行の一つとして、とても特別であることに気づきました。声が綺麗であることが、音痴であることが関係なく、心で歌い喜びを感じます。メンバーたちの中で調和が広が

花流の御詠歌と気持ちを精一杯、声に乗せて献詠されていきました。



▲『聖号』をお唱えしながら大仏殿へ

▼大仏様の足元で献詠



ります。競争がなくなり、体と心が穏やかになる音楽・音楽の坐禅です。二〇一一年には山形県第三宗務所の奉詠大会に、二〇一二年には梅花流創立六十周年記念奉詠大会に参加することができました。梅花流の修行をする沢山のひと々と一緒に居ることができ本当に嬉しかったです！他の参加者と肌の色が違ってもかかわらず、仲間として気持ち良く受け入れられていたのを感じました。

私たちのグループは相変わらず小さく、練習のための集会は最低月に一回に限定されています。それでもしつかり、お釈迦さま、道元禅師、瑩山禅師の教えを喜びの心でお唱えするために集います。人の心へ呼びかけるこの歌をもっと広く知らせるために私たちががんばります。梅花流で出会った先生方から受けた教えと愛情に心から感謝します。

Isshin Havens
へブンス心合掌



間に合わせのセット



講習風景

梅花流への思い

南こうせつさんインタビュー

この度、南こうせつさんとの特別対談が実現し、梅花流創立六十五周年記念奉讃大会にて発表される新曲に込められた思い、梅花流への思いを伺うことができました。

宗務総長…

はじめまして、曹洞宗宗務総長と申します。釜田隆文と申します。

どうぞよろしくお願いたします。

伝道部長…

伝道部長の渡部卓史でございます。

このたびは梅花流の新曲をおつくりいただき、また梅花創立六十五周年記念奉讃大会にてご出演、発表をしていただき運びとなりました。まことにありがとうございます。

南さん…

こちらこそありがとうございます。

宗務総長…

南さんには平成十八年度大会にご出演、その際に「まごころに生きる」をおつくりいただきました。今やみなさんの心のなかにふつといきづき歌われており、本当にいい歌をおつくりいただいたと思っております。

南さん…

ありがとうございます。

私も曹洞宗のお寺の息子として生まれたお陰で、父の木魚の音やリズム、お線香の匂い、本堂でのかくれんぼ等々、お寺の雰囲気すべてが、私にとっての日常でした。歌のご依頼があった時は、仏さまのご縁かなと思ひ感謝の念を覚えました。

宗務総長…

やはり仏縁をお持ちだったということでしょうね。

南さん…

仏縁というのはすごく感じますね。



伝道部長…

今回の新曲をどのような気持ちでおつくりになられたのかお聞かせいただけますか。

南さん…

人は奇跡的にこの世に生を受け、それぞれの道を歩んで行きます。が、平坦な道はありません。ある時は石ころの坂道を登り、ある時は激しい雨に打たれ、苦しい思いをしながら、気がつけばその日が暮れていきます。そんな日々の中で、朝露の美しさに目を奪われたり、その露が消えてゆく儚さに虚しさを感じたり、はたまたささいな事で他人を妬んだり、自己嫌悪に落ち入ったりと…

人は本当に大変ですね。だから愛おしいんですね。

ちょっと長くなりましたが、全てこの身のままに、あるがままにという思いを込めて作った歌です。

対 談	
南 こうせつ	シンガーソングライター
釜田隆文	宗務総長
渡部卓史	伝道部長

伝道部長…

梅花流は「お誓い」をお唱えの前にいたします。その中にも掲げておりますが梅花流は信仰をまず抛り所としております。梅花流に対して南さんのお気持ちを聞かせただけですか。

南さん…

そうですね。人間が本来持っている命の波動と言うんですかね。それを感じました。この国の自然を愛で、四季折々の情緒を歌う「梅花流」は素敵な声明ですね。今や世界はグローバル化となって、せわしなく動いています。国も民族も宗教も関係なく、経済活動のうねりに呑み込まれていく様を見聞きする度に、悲しくなります。日々の暮らしにおいて、人間がその暮らしの真ん中にいるのだろうか？もつと人と人が感じ合い、触れ合ってこそ、本当の幸せに辿り着けるのではないのでしょうか？

伝道部長…

梅花流の歌には、その答えとなる大切な想いが込められているような気がします。

南さん…

記念奉讃大会には多くの方が集まります。そこで新曲をお聴かせいただくのは本当に楽しみであります。来年の会場に來られない方の中にも毎日梅花流に励んでおられる方も大勢いらっしゃると思います。南さんからメッセージをいただけますか。

皆さまと一緒に新曲を歌える事を、心か

宗務総長…

ら楽しみにしています。忙しい毎日の中で、一瞬でも目を閉じ自分のいのちと向き合せて祈りましょう。きっと仏さまの歌が聞こえてきます。

南さんの今お話になられた仏縁を感じておられる心そのままこの新曲に出てきていると思います。この新曲を全国の梅花講



総長・部長…

員が声高らかに歌い、それによつて梅花がますます発展するだろうと思います。本当にありがとうございます。

プロフィール

1949年、大分に生まれる。
1970年からバンド「かぐや姫」で活躍。
その独特の音楽性とバイタリティで、創世期のフォークミュージックシーンに強烈なインパクトを与えた。「神田川」「赤ちょうちん」「妹」等、ミリオンセラーを数多く発表。
1975年、かぐや姫解散後も「夏の少女」「夢一夜」等のヒット作品を発表、深夜放送などでもそのユニークなキャラクターと巧みな語り口で人気パーソナリティーとなる。
また、日本人として初の武道館ワンマン公演を成功させ、1981年より「南こうせつサマーピクニック」、1986年より、新しい原爆

養護ホーム建設を目的とした「広島ピースコンサート」、1992年からは音楽を通じ減少しつつある都会の緑の大切さをメッセージする“自然”とのふれ合いコンサート「GREEN PARADISE」を開催するなど勢力的に活動を展開する。
デビュー以来、コンサート活動をベースに多くの支持を得てきたが、近年その活動領域は多方面へと広がりを見せ、アーティストとしてだけでなく一生活人として時代を見据える彼の姿勢は大地に根ざした独自のライフスタイルと共に多くの共感と支持を得ている。

ワンポイント レックスント

今回のワンポイントレックスントは来年度の記念奉讃大会での献詠曲でもある「大本山永平寺第一番御詠歌（溪声）」です。

梅花流専門委員 静岡県 然正院 安田 光彰



大本山永平寺第一番御詠歌（溪声）

溪声をお唱えするにあたり、まず念珠の掛け替え所作があることをお忘れなく。
打鉦のみで奉詠する曲で大切なことは、発声と同時に打鉦することです。また、ほかの詠讃歌より幾分強めの打鉦をすることにより、声の不揃いが矯正されます。

詠唱面では頭句「み」のミ音に留意。詠題からお唱えする場合は特に気をつけましょう。
曲中の唱念「頭下」「頭上」とあるのは、それぞれ下げ始める、上げ始めるとご理解ください。最後の文節「がたー」とは転調するので十分に留意してください。
伝承曲のうち一曲で十分な練成を要します。

大本山永平寺第一番御詠歌（溪声）

拍速四〇位

莊嚴に

だいはんざんえいへいじたいいちばんごえいか

けいせい

の ひびきも みなな（ア）

が ー ら わがしやかむに

の み ね の い ー ろ た に

こ え と す が た ー と

詠道課だより



● 渡部卓史伝道部長就任

昨年十月、第二次釜田内局伝道部長を拝命しました渡部卓史（高根県神光寺）です。今年は梅花流創立六十五周年を迎え、大本山永平寺において献詠、サンドーム福井において記念式典を行います。伝道部詠道課一同、一丸となって素晴らしい大会となるよう頑張ります。どうぞ宜しくお願い申し上げます。合掌



● CD 『追慕』 製作中

梅花流創立六五周年記念奉讃大会の記念事業として、CD『追慕』の発表を企画しております。尺八のメロデーによるカラオケ版となる予定です。

【収録予定曲】『追善供養御和讃』『追善供養御詠歌（妙鐘）』『無常御和讃』『無常御詠歌（月影）』『報恩供養御和讃』『報恩供養御詠歌（澄心）』『追弔御和讃』『新亡精霊供養御和讃』『玉蘭盆会御和讃』『玉蘭盆会御詠歌（迎火）』（予定）



● 檀信徒講習会のご案内

今年度は檀信徒講習会を一泊二日の日程にて永平寺・總持寺の両大本山で開催いたしました。来年度も同様の形式で開催する予定です。
ご本山での貴重な講習会となりますので、ふるってのご参加をお待ちしております。詳細に関しては四月ごろの発表となりますので、所属の梅花講までお問い合わせください。（中教導以上の檀信徒講習員が対象となります）

● 頒布物について

◆ 梅花流詠讃歌教典
用紙を越前和紙に変更。
カバー、表紙の色合いも変更しております。
価格 一八〇〇円（税込）

◆ 夏用梅花服
夏用梅花服の生地を変更いたしました。従前より明るい色合いで涼しげな風合です。是非ご利用ください。
小・中・大・特大 各サイズ 価格 八〇〇〇円（税込） 特注。サイズの作製も承ります。
（従前の頒布品もご利用いただけます。）

夏用梅花服



ご注文は曹洞宗ブックセンターまで
電話フリーダイヤル 0120-498-971 FAX 03-3768-3561